



## 土木学会を建設学会または 建設工学会と改名する時期

正 員 須 之 内 文 雄\*

名前と言うものはその関係者だけでなく、一般人に内容をできるだけ簡明にわからせるものであるが、いろいろな専門学科名のうち土木と言う日本語ほどその内容と語感が相違し、従つて誤解されやすい科目はない。我々はこの名に親しんで来たから強く感じないのであるが、一般人は土木と言えば、土方や疑獄事件を連想し、堤防や隧道等を考えてくれる者は善い方である。相当の知識人でさえ土木と言う名称からは我々が受取つた鉄道、道路、橋梁、河川、港湾、水力電気、都市計画その他の広汎な内容を捕えにくい。鉄筋コンクリートの発達、建設の機械化等は土木と言う名称をますます不適當にし、古くさくしている。

英語の Civil Engineering は文化工学とでも訳したところであるが、それではすべての技術が文化のためであつて適當ではなく、明治初期の先輩が古来の名に大きな変更を加えず、土木工学としたのにはいろいろ苦心があつたであらう。しかし時代の進展に従つて非常に善い名称が現われて来たとしたならば改めるに憚ること勿れである。新しい名としては建設工学が最適であり、すでにその趨勢が大分進んで来たようである。この際それに拍車をかけて一挙に全部を改名すべきであると思う。

その場合の問題は建築工学との混同だけであるが、

\* 帝都高速度交通営団調査室

実際問題として両者は一方を建設、他方を建築と呼ぶのが適当なほど接近しているのである。さらに建築は土木とか建設とかの一部であるとも言ふことができる。土木と言う語の一部に感ぜられる建築の独立を認めて来た我々が、建設と言う語の中に建築が含まれる感じがするからと言つてそれを撰ぶのに躊躇する理由はない。建設と建築の混同感などは同じ発音をする科学と化学の場合等に比べればはるかに軽く、時の経過とともにその感じは薄らぐものである。強いて混同感を避けたいとすれば先方が建築学会なら我々の方は建設工学会、同じ大学に建築工学科があるなら我々の方は建設学科、建築学科があるなら我々の方は建設工学科と言うように工の字を入れたり除いたりする方法もあるであらう。府県の土木部が建設部となりその下に建築課があつても大きな混同感はおこらない。

建設省が生れ、一、二の私立大学等には建設工学科ができ、請負会社等も土木の文字を捨てて建設会社と改名するものが多くなつて来たようである。この趨勢に加速度をつけるために我々の土木学会もこの際、建設学会または建設工学会と改名すべきではないだろうか。学会が改名すれば官庁学校等もこれに習い、新しい名称によつて国民全般との親しみを増し、一層多くの優秀な、しかも型の変つた人材が集まり、今後の発展に大きな力となるに相違ない。

38 卷 11 号 “いわゆるヘドロのチキソトロピーについて” 正誤表

ページ	行	誤	正
20	右上より 14	remold	remolding
21	表-1	$\text{SiO}_2/\text{Al}_2\text{O}_3 \mid 2.59$	$\text{SiO}_2/\text{Al}_2\text{O}_3 \mid 3.85$
"	"	$\text{SiO}_2/\text{R}_2\text{O}_3 \mid 2.46$	$\text{SiO}_2/\text{R}_2\text{O}_3 \mid 3.29$
23	図-7	流動保教	流動係数
"	右下より 2	報告されて	報告 <sup>7)</sup> されて
24	図-11	Experience	Experiments
26	右上より 1	特種試験によるヘドロの研究、土と基礎に発表予定	いわゆるヘドロの粘土鉱物について、近く発表予定